



ともしび

— TO MO SI BI — 第348号

2025(令和7)年4月号

「お花見といえは何の花？」

草花が芽吹き始めると言われる清明(せいめい)の候、桜の開花も進んでいるようですが、いかがお過ごしですか？

この時期、桜が咲くとお花見に行くという方も多いと思いますが、お花見＝桜というのが一般的になったのは明治時代に入ってから。それまでは梅や桃でお花見というのがお花見＝桜になったのは、巢鴨近くにあった染井村の植木職人が作ったソメイヨシノが登場してから。単に美しいだけでなく、あつという間に散っていく姿に命のほかなさ・無常感といった仏教的なものを日本人が無意識に感じ取っているからではないかという説もあるとか。皆さんはどうですか？

仏事のおさらい

友引の本当の意味

「友引に葬儀を行うと友を引かひかれるからダメ：」そんな話を聞いたことはありませんか？

結論から言いますと、「友引」というのは当て字で、元は「共引」と書いていました。意味は「共に引き合って勝負つかず」つまり「引き分け」の意味です。しかも、友引を含めた先勝・先負・赤口・大安・仏滅は、中国が起源の六曜という考え方にあるもので仏教とは関係ありません。そもそも、仏教は因果の道理(原因があるから結果が生じるという道理)を説いている教えです。なので、何の原因もないのに悪いことは起こらないのです。原因が思い当たらないのに悪いことが起こったと思うのは、自分が原因を忘れてるか、「まさかそ

んなことが」ということが原因になっているからです。

それでも「友引の日に葬儀をする人が少ないのは事実なのだから何か理由があるのでは？」と考え人もいますよね。実はあるのです。理由が！

その理由とは「火葬場が休みだから」です。世間の慣習を利用して多くの火葬場は友引を定休日としています。もちろん友引にも営業している火葬場がわずかながら存在します。

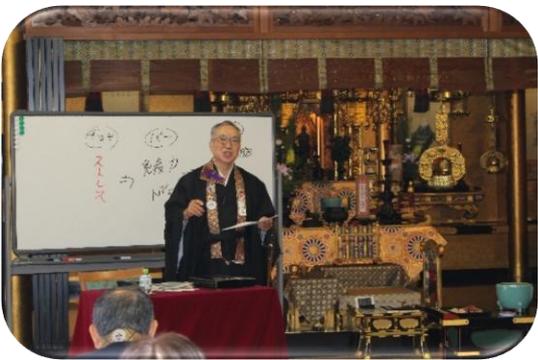
つまり、いつの間にか当て字された「友引」から「友を引く」という根拠不明の慣習が出来上がり、そこに火葬場が休みという理由が絶妙に絡み合って「友引には葬儀をしてはダメ」という摩訶不思議なものを作り出したのです。親鸞聖人も「日の吉凶に振り回されて人生をおくるのは、悲しいことです」とおっしゃっておられますよ。

3月の行事報告

春季彼岸会

3月20日(木祝) 午後1時～ 法話:赤川 浄友 師(神奈川県 恵光寺)

当日は、21名の方が参拝され、お彼岸の法要をお勤めしました。
講師の赤川先生は、「歌と笑いと仏様 おかげさまの心で」という内容をお話くださり、参拝された方と一緒に歌を歌いながら仏さまの徳の味わいをお伝えくださいました。歌は、「いのちの理由」・「涙そうそう」・「千の風になって」など、一度は耳にしたことのある歌でしたが、その歌詞の中にも仏さまのお心が示されているとお話くださり「そうなんだ～」と新たな気づきを与えてくださいました。参拝の皆様も知っている歌を歌いながらだったということもあり「楽しかった」などの声をいただきました。



笑いを交えながらの赤川先生のお話



歌も歌いました!



先生の著書を奉讃会で寺文庫に加えてくれました



3月がお誕生日の方と

その他のお知らせ

東久留米分院からのお知らせ

よくある質問

Q: 浄土真宗のお寺に御朱印がないのは何故ですか？

A: 御朱印を参拝の記念スタンプだと思っている方がいらっしゃいますが、御朱印とは、もともと寺社仏閣に写経を納める際に発行される受取証でした。経文を写して寺に納めること（納経）は追善供養のために行われるのですが、浄土真宗では追善供養を行わないので納経もありません。ですから、その受取証である御朱印もないのです。

Q: 法名と戒名は違うのですか？

A: はい、違います。法名は、お釈迦様の弟子になって、仏教徒としての自覚を持って人生を生きてゆくことを誓った証として授けられるものです。これに対して、戒名は仏弟子としての戒律を守って修行を行っていくことを誓うときに授かるものです。代表的なものに「生き物を殺さない」「盗まない」「嘘をつかない」「浮気をしない」「お酒を飲まない」などがあります。ちなみに、法名も戒名も生前に授かるのが基本です。

奉讃会からのお知らせ

4月の「念仏奉仕講の活動」は4月6日（日）です。

毎月第1日曜日に行っている東久留米会館の奉仕活動ですが、4月は4月6日（日）の8時から予定しております。参加人数が多くなればできることが増えますので、皆さま是非ご参加ください。

[奉讃会 会長:熊谷 武]

東久留米分院の 行事案内

—Schedule—

▶ 4月の行事予定

灌仏会（はなまつり）

4月13日（日）午後1時～

法 話：岡本信悟 師（東京都 大恩寺）
灌仏会（かんぶつえ）とは、お釈迦様の誕生を祝う法要です。お釈迦さまは、ネパールの「ルンビニ」という場所にある花園で誕生したと言われていることから別名「はなまつり」とも言います。
一緒に、お釈迦様のお誕生日をお祝いしましょう！

御命日晨朝 総参拝

4月16日（水）午前7時～

月に1度の親鸞聖人御命日に、私たちと一緒に朝のお参りをして、スッキリした1日をスタートしませんか？
参拝された方には、お供物をお渡しいたします。

▶ 5月の行事予定

降誕会

5月18日（日）午前10時～

法 話：安藤智舟 師（山梨県 浄恩寺）
降誕会（ごうたんえ）とは、親鸞聖人の誕生をお祝いする法要です。親鸞聖人のおかげで、私たちは阿彌陀如来の救いに気付くことができました。親鸞聖人がこの世に誕生されたことを共に感謝しましょう。

先月のご進納

【お仏飯米】

熊谷 武様 山下 肇様

近藤 敏之様 （順不同）

誠にありがとうございました。

編集後記

いつも「ともしび」をお読みいただきありがとうございます。

今年も、春らんまんの四月がやってきましたね。四月は出会いの季節とも言われますが、皆さんの周りにはどんな出会いがありましたか？そういわれると何か特別なものを想像するかもしれません。実は、出会いには特別なことはありません。私たちは今日も、自分の新しい命と出会ったのですから。でも、今日の命は当たり前前に存在するのではなく、有難いご縁をいただけた結果なのだということを忘れず大切に過ごしたいものです（伊藤）

東久留米会館会報「ともしび」

通 刊 348号

発行日 2025年4月1日

発行者 伊藤 法友

住 所 東京都東久留米市柳窪5-8-30

電 話 042-474-6787